

いろいろ発見 **高砂** さあ、出発だ！

# 高砂堀川

さいはっけんちず  
再発見地図 (た行)

《絵図番号の説明》

- 1 トンガノ厩根と6本の鉄柱をもつ旧配水塔
- 2 ショッピングセンターサンモール高砂のオブジェ
- 3 旧国鉄高砂線のレールの切り替えモニュメント
- 4 レンガの煙突を持つ旧風呂屋さん「梅っ枝屋」
- 5 旧国鉄高砂線の蒸気機関車の車輪のモニュメント
- 6 平安時代に創建されたお寺「十輪寺」
- 7 昔ながらのきれいな町家が残る魚町
- 8 曲線を細く屋根を持つモダンな洋館「松本家」
- 9 モダンなデザイン「三ツ堂化学」
- 10 賑やかな向こう3軒両隣「12軒長屋」
- 11 時代を感じさせる「銀座商店街入口のゲート」
- 12 銀行として活躍していたやまじ屋の連柱を持つ「高砂商工会議所」
- 13 南蛮貿易「天竺徳兵衛のお墓」(善立寺内)
- 14 高砂の銘菓、野路菊饅頭のお店「柴田眞正堂」
- 15 貴重な木造洋館「高砂興業部」
- 16 町家の強い見方「高砂市の消防分署」
- 17 祭りまで出番をじっと待つ「舞台番」
- 18 藍屋町の「卯建のあるまちなみ」
- 19 高砂の名産、焼き穴子のお店「下村商店」
- 20 よく手入れされた立派な倉が並ぶ「松本家」
- 21 もかしのがらみの重厚な町家「工楽園」
- 22 昔の映画館、東照館の一部残る「レンガ壁」(「と」巻)
- 23 通りの中にお宮を持つ「西宮町の辻広場」
- 24 焼き板を使った扉を設けた「東宮町の道の」
- 25 東宮町の「恵比寿神社」
- 26 相生の松でも知られる「高砂神社」
- 27 レンガ倉庫
- 28 高砂港南側の「漁村のまちなみ」
- 29 港の先端に建つ美しい建物が「大崎邸」
- 30 昔の町家の様子がよく分かる「花井邸」
- 31 昔あった堀にかかっていた「稲荷橋」
- 32 東から高砂に入る時に通る「急菜橋」
- 33 三疊製紙高砂工場の「レンガの建物」
- 34 甲斐堂が創設期から明治12年まであった場所
- 35 双葉山の横綱のある三嶋大明神「つ」巻

**かさごの浦に漕ぎ出す神輿船!**

高砂神社では毎年10月に秋祭りが行われ、神州三大祭の一つとして「神州名所巡遊図録」にも「高砂高千の提灯に月星の光を奪う」と記されている船渡御神事は3年に1度実施されます。

神社を出立した神輿が町内を練り歩いて船着き場に集結すると、締め込み姿の若衆が水中に入り、神輿を頭上に支え、御座船に乗り、船渡御が始まります。高張り提灯を掲げる供養船を従えた御座船が旗の若衆たちに支えられて港に向かい、さらに神社へと送迎されていきます。

**ちっこの工事楽しむ松右衛門!**

江戸幕府は、工業松右衛門に沢山の波止場をつくるよう命じました。その後、松右衛門は自分の船に築港用の器具や機材と日本旗を積み込んで筑港船に乗り、工事に着手しました。厳しい寒さなど、多くの困難に克服されましたが、約1年をかけて、松右衛門は立派な波止場を築き上げました。(佐7のイラスト)

**よかった! 双葉山縁の横綱相荷**

相撲史上に残る名横綱の双葉山が横綱に昇進した時に絞めていた綱が三嶋大明神に保存されています。

双葉山は明治45年に生まれ、15歳で立派部屋に入門し、35代横綱になりました。69歳時という偉業は冷でも破られていません。昭和43年に36歳で生涯の幕を閉じました。(位置番号35)

**ちまの中央に位置する十輪寺!**

十輪寺は寺法によれば弘仁6年(815年)に弘法大師が勧修により創建したとされ、その後、法皇上人が西園に築かれる途中で高砂に立ち寄ったことから浄土系の寺院として再建されました。境内には高僧仏と噂される聖堂印塔がありますが、これは文禄元年(1592年)に豊臣秀吉が朝鮮出兵を行ったときに高砂から徴発された水子吉人のつら九十六人が亡くなったことを供養して建てられたものです。(位置番号の)

**どうしようかん面影残すレンガ壁!**

大正時代の高砂は、高砂市にはかつて、数軒の映画館がありました。そのうちの「つがえ屋」が元々あった「高砂座」です。その後、映画館となって「東照館」と名前を変えました。高砂町を南北に貫く本町商店街はかつて、かなり賑わいを見せ、その通りに位置する「東照館」にもたくさんの方が訪れていました。現在、建物は取り壊されて、レンガ壁の一部が残っています。(位置番号22)



高砂神社の境内にある  
工業松右衛門の銅像



帆布の改良をしたことで知られる初代工業松右衛門は、寛保3年(1743)に高砂町東宮町に生まれました。

幼少の頃から改良や発明が好きだった松右衛門は、それまでの脆弱な帆布に改良を加え、木槌を使った厚地大織物の帆布の織り上げに成功。「松右衛門織」と呼ばれる全国の帆布に用いられるようになりました。

また松右衛門は幕府の命を受けて千島のエトロフ島に埠頭を築き、函館にドックをつくりましたが、これらの功により「工業を築く」という意味の工業の姓を与えられ、その後も優れた築港技術者として高砂港をはじめ各地の港の改修を手掛けました。彼の業績をたたえ、高砂神社の境内に銅像が建てられています。制作

高砂町は、江戸時代初期に経路海により建設された計画都市であり、商業や農業などの物資の集散地として繁栄しました。

近代に入ってから、海軍部に工場が立地する産業都市へと機能的な変遷は見られました。町割や道の構成など都市の骨格は築かれた当初の面影を残しています。

また、伝統的な建造物が点在し、歴史の積み重ねを感じさせる雰囲気もいに伝えています。

しかしながら、近年は建築物の改修や古建物の倒壊などにより、地域の特徴ある景観が失われつつあります。

堀川地区のお稲荷さん

堀川地区は、狭い範囲に以下の10ものお稲荷さんが祀られている稀に見る地域です。

昔この地区で疫病が流行った時に祀られたものだとする説もあるようですが、...! 定かではありません。一つ一つに長い歴史があり、その面持ちもそれぞれです。散策しながら探してみてくださいね!

- |         |       |       |
|---------|-------|-------|
| 高砂稲荷大明神 | 中村大明神 | 木更大明神 |
| 松田大明神   | 大秀大明神 | 日尊大明神 |
| 農考大明神   | 金丸大明神 | 三嶋大明神 |
| 高倉大明神   |       |       |